

I . 調查目的・方法

I. 調査目的・方法

1. 調査目的

本調査は、将来の社会的自立に向けた基礎を形成する時期にある子どもたちについて、家庭や学校、地域などでの生活実態や意識を把握することにより、不登校・ひきこもりなどに関連する要因等の分析をし、今後の施策立案の参考とする。

2. 調査設計

- (1)調査地域 愛知県内（名古屋市、尾張、西三河、東三河の各地域）
- (2)調査対象 市町村の人口規模、地域バランスを考慮して、小学校10校、中学校8校を抽出。
抽出校の対象学年の児童生徒。
小学校5年生、中学校2年生、各1,000人
- (3)調査方法 調査対象校に対して、調査票を郵送し、学級での配布、実施、回収を行ったのち、郵送により学校ごとに回収した。なお、調査にあたっては、児童生徒のプライバシーの保護に配慮した。
- (4)調査期間 平成20年9月10日（水）～9月26日（金）
- (5)調査受託者 愛知県立大学文学部児童教育学科 山本理絵准教授（「青少年の自立支援策に関する検討会」（以下「検討会」という。）委員）

※調査目的・内容・方法については、愛知教育大学 中野靖彦教授（検討会会長）をはじめ、検討会委員に、意見をいただき、協力していただいた。また、質問項目の設定にあたっては、愛知県立大学 堀尾良弘准教授にもご協力いただいた。

3. 調査項目と分析方法

(1)調査項目

- ① 自分自身や家庭・家族のこと
- ② 自分の心身の状況や生活の様子
- ③ 学校生活や家庭での生活
- ④ 将来の希望
- ⑤ 悩みごとなど
- ⑥ 地域のこと

（本報告書末尾の調査票を参照のこと）

(2)集計・分析方法

調査用紙に記入された回答を、すべて番号・記号で入力し、統計解析ソフトを用いて集計・分析した。集計・分析も調査受託者が行った。

小5データと中2データは、各質問項目についてそれぞれ別々に集計した。各項目の無回答を除いた全体を100%として集計した。回答者が全員ではなく限定されている場合、回答者数がわかるように、図中に「n」で示した。

男女別等の比較、平均値の比較や、項目間の関連については、検定をして、基本的には有

意差が認められたものについて報告書に載せた（本文に断りがある場合は、その限りではない）。目で見て差があるように見えても、統計的にはそうでない場合もあるので、検定の結果、統計的に有意（差や関連がない確率が、5%より小さい）である場合、有意水準を表す記号として、*（5%水準）、**（1%水準）、***（0.1%水準）を、グラフに示している。これら有意差が認められたものは、統計的に差や関連があるといえる。

調査項目②においては、24項目の「日本版QOL尺度」*を用いた。

※「日本版QOL尺度」は、子どものQOL（Quality of Life）を「子どもの主観的な心身両面からの健康度・生活全体の満足度」と定義したRavens と Bullinger らがドイツで開発した Kid-KINDL^R を日本語訳したものである。小学生版と中学生版でやや表現が異なる項目があるが、英語版、ドイツ語版を確認のうえ、「日本版QOL尺度」とほぼ同じ表現を用いた。

各質問項目には5段階評定で回答してもらい、6領域（身体的健康、情緒的 Well-being、自尊感情、家族、友達、学校）計24項目の合計点を0～100点に換算したものを「QOL得点」とした。得点が高いほどQOLがよりよい状態であることを示す。この尺度は、日常生活場面である家庭と学校における心身の健康度と適応状態を考慮に入れた包括的かつ簡便な尺度であり、その信頼性・妥当性が確認されている。そして、うつ傾向及び自尊感情と高い相関関係があること、また、軽度発達障害児の得点が低いことが報告されている。

なお、日本版QOLを作成したメンバーである古荘純一教授（青山学院大学）と、原作者であるRavens らには、その使用許可をとってある。このような項目を含んだ調査であるので、報告書末尾に掲載している本調査票を許可なく複製して調査に使用することは禁じる。

<QOL尺度に関する参考文献>

- ・柴田玲子・根元芳子・松崎くみ子他「子どものQOL尺度質問用紙（小学生版・中学生版・親用） 厚生労働科学研究（子どもの家庭総合研究事業）『「健やか親子 21 推進のための学校における思春期の心の問題に関する相談システムモデルの構築」 総合研究報告書』2005年 pp.26-45
- ・古荘純一「学童期の子どもの現況：QOL尺度調査からの考察」『小児の精神と神経』47(4)、2007年 pp.233-243
- ・松崎くみ子他「日本における Kid-KINDL^R Questionnaire（小学生版 QOL 尺度）の検討」『日本小児科学会雑誌』107 巻 11 号、2003年 pp.1514-1520
- ・松崎くみ子他「日本における『中学生版 QOL 尺度』の検討」『日本小児科学会雑誌』111 巻 11 号、2007年 pp.1404-1410

4. 回収結果

	配布数	回収数
小学校5年生	1,082人	1,065人
中学校2年生	1,044人	997人

（対象学年の在籍者数分を配布した）